

# ANAQUA Gives Arm its “Jazz Hands”

Armに知財管理への情熱を与えるANAQUA



## 世界にパワーをもたらすARM HOLDINGSの知財ビジネス管理

コンピューティングおよびコネクティビティ技術の革新は人々の生活様式やビジネス運営の形を変えつつあり、Arm Holdingsはこうした革新の中心で技術開発を行っている企業である。

Armが手掛ける先進的かつエネルギー効率の良いプロセッサ設計は、1,250億個を超えるシリコンチップでプロセッシングインテリジェンスを実現しており、センサーからスマートフォン、スーパーコンピュータに至るまであらゆる製品の機能を確実に向上させている。世界最大のコンシューマブランドなど1,000社以上のテクノロジーパートナーと共に、チップ、ネットワーク、クラウドなど、コンピューティングが存在するすべての領域にイノベーションをもたらしている。

このケーススタディの質問に回答してくれたArmの特許業務責任者であるDaryl Bradley (ダリル・ブラッドリー) は、日常的にANAQUAを使用して業務を行っている。

### ANAQUAを一言で表すとしたら？

コンフィギュアビリティ（設定可能であること）とコネクティビティ（繋がりやすさ）。

ANAQUAのプラットフォームはArmのビジネスニーズに合わせて調整をすることができる。またモジュール間のコネクティビティがあるため、様々な種類のIP権利、レビュー、製品間の関係をたどることもできる。

ANAQUAは確実にチームの業務能力向上に効果を与えてくれた。チームはプラットフォームに惚れ込んでいて、知財部はANAQUAの熱狂的なファンだと社内でも言われるほどになった。

### ANAQUAを選んだ理由は？

私がArmの特許グループに配属された時、ANAQUAは実装の最中だった。このプラットフォームを選んだのは前任者のSuzanne Oliver (スザンヌ・オリバー) で、今はArmの特許および商標のシニア・ディレクター職についている。Armのポートフォリオは拡大を続けていて、年々より多くの特許を申請するようになったため、Suzanneはポートフォリオを管理する知財プラットフォームの必要性を強く感じていた。

### ArmでのANAQUAの使用法は？

はじめは発明手続きと特許にのみ使用していたが、その後知財ポートフォリオ管理の能力向上に向けて、機能を徐々に増やしていった。最初に使用したのは特許モジュールと発明モジュールだったがその後、知財と他のビジネス領域との連携をより正

確に追跡するにはデータベースを整備する重要性があると認識し、知財レビューのモジュールを追加した。

過去18カ月間は、進行中の訴訟アクティビティの追跡能力向上に向け、ANAQUAチームと連携をして係争モジュールのロールアウトを行った。そして約1年前には当社のオープンソース・ソフトウェアのコントリビューションおよびワークフローの管理能力を向上させる方法の模索を開始した。

これはArmにとって重要なプロジェクトであった。特許ポートフォリオに対する潜在リスクを迅速に特定・追跡する事が可能で、スケール変更も出来るソリューションを見つけ出す必要があったからだ。ANAQUAのソフトウェアのおかげで、私たちは効率的なリスク管理プロセスを実現し、事業と共にプラットフォームを拡張することも可能になった。

---

**ANAQUAがあって初めて実現できたものがある：それは完全に管理されたリアルタイムの知財データベースだ。これにより私たちはオープンソース・ソフトウェアのコントリビューションに関して確かな報告ができるようになった。**

---

### ArmにおけるANAQUAユーザーは？

特許グループの約25人と100人以上の発明レビュー担当がいる。そしてその他の分野では、知財レビューモジュールを使用してオープンソースのコントリビューションのレビューを担当するユーザーが10~15人、ANAQUAソフトウェア内で提供される閲覧および承認機能を使用してリクエストに承認を与えるユーザーが会社全体で約50人いる。

会社全体では45のオフィスで6,000人、全員が発明者ポータルとANAQUAが当社向けに作成したレポートにアクセスできるようになっている。

### ANAQUA採用前の知財業務について

以前は使用する各特許法律事務所が提供する外部のデータベースに依存しており、彼らのシステムにアクセスして自社のポートフォリオを閲覧したりレビューしていた。ANAQUAを採用する前、社内の知財データは連携しておらず、特許法律事務所が当社向けに提供してくれる情報に頼っていたので、自社のポートフォリオおよび保有している全ての知財資産を完全に把握しようとするのは困難な作業だった。しかしANAQUAを採用後は、複数の特許法律事務所とのやりとりも容易になると共に、データの一元化がはるかに簡単になり、これまでよりもスピーディに特許の価値を見出すための新しく優れた方法を見られるようになった。

### 普段の活用法について

私は特許業務の責任者だが、この任務につく前は様々な特許ポートフォリオを管理しており、ANAQUAプラットフォーム上ではケースマネージャーの役割も担っていた。私が管理するケ

ースについて外部の特許顧問が割り振るタスクも担当したりしていた。また、ANAQUAと直接連携して知財レビューモジュールの実装を行い、Armの業務ニーズに合ったワークフローを構築したりもした。

時間をかけて私はこのプラットフォームについてより多くのことを学んだ。そしてワークフローを社内業務フローに合わせてさらにカスタマイズし、ANAQUAソフトウェア内でオープンソース・ワークフローを初めから終わりまで構築した。今は、チームがスムーズかつ効率的なプロセスを実行できるようにすることが私の役割であり、そのためにANAQUAソフトウェアを活用している。

必要なガイダンスを与えてくれるANAQUAのクライアントマネージャーのおかげで、チームは率先してワークフローおよびレポート機能に拡張や改良を行っている。

### 社内コミュニケーションはどの様に強化している？

ANAQUAにより、私たちはすべての自社データにすばやくアクセスでき、社内の対象者に合わせて多様なレポートを作成する機能を持つことが出来た。

発明者をサポートする分野では、発明者ポータルを介してデータの一部をセルフサービスで取得することができるので、知財チームの業務負担が軽減されている。この機能がなかった頃は、様々なソースからデータを収集しスプレッドシートを使用して大量のデータを処理しなければならなかった。ANAQUAがある今、チームはシェア可能なデータやポータルにアクセスできるほか、HyperViewのようなレポートを広く活用してコミュニケーションを行うなど、データから得られるインテリジェンスをチーム内外で共有している。

### ANAQUAの最も優れている点は？

コンフィグ設定が可能などところである。ANAQUAは静的なプラットフォームではない。必要に応じて変更が可能でありながら、新機能が追加されればそのアップグレードパスもある。そしてもう一つ、私たちにとって重要な点はドキュメントや情報のコネクティビティだ。複数のモジュールにわたってドキュメントや情報を紐づけたりリンク付けできるため、知財資産についてさらに深い知見を得ることができる。

### このソフトウェアが会社にもたらしたものは？

知財ビジネス管理に関するすべてが一つのプラットフォームに統合されているため、アイデアの承認や却下、オープンソースのコントリビューションを一元で追跡できる様になった。また、必要に応じて様々な機能を追加拡張してロールアウトすることも計画できる様になった。

---

**何百もの書面やEメールを一つのプラットフォームですべて対処できることで、私たちはこれまでよりも迅速にポートフォリオのレビューを行えるようになった。**

---



〒100-0004

東京都千代田区大手町2-6-4  
常盤橋タワー9F

ContactJapan@anaqua.com

© 2025 Anaqua, Inc., All Rights Reserved. ANAQUA is a registered trademark of Anaqua, Inc.